

# 抗 議 文

アレフの代表だった上祐が、ひかりの輪に分裂して17年になる。アレフとは違うと言うが、我々は信じていない。ひかりの輪は、アレフ時代からの信者で構成しており、かつて麻原が、教団存続のために別の団体を作るよう指示を出し、指示通りに上祐が設立したものだ。麻原脱却を見せかけているが、本質は何も変わらない。

6500人もの被害者を出した地下鉄サリン事件を、我々は絶対に忘れることはない。監視活動をやめることもない。成城警察署、公安調査庁もそれぞれ詰所を持って監視している。僅かな兆候も見逃さない。

ひかりの輪は、セミナーの開催や聖地巡礼を繰り返している。更に若者をターゲットに、ネットを使い動画配信やSNSで新たな信者獲得を図っている。

上祐は悪あがきをやめて一刻も早くひかりの輪を解散し、信者を自由にすべきだ。解散後の生活を考えるなら、その相談に乗る用意はある。

ひかりの輪が活動を続けるかぎり、我々は解散・解体するまで粘り強く闘い続けることを宣言する。

令和6年5月11日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会  
会 長 古 馬 一 行